



図書館だより

令和2年6月②

広尾学園中学校・高等学校 図書館

司書教諭 曾我部

★ 中高生に読んでほしい本&一行大賞 (新潮文庫)

新潮社は去年に引き続き、若い世代が読書に親しんでいく際に指針となる作品を集めた小冊子「**中学生に読んでほしい30冊**」「**高校生に読んでほしい50冊**」(別紙)を同社 web サイトで公開しました。冊子は2900余点の新潮文庫の作品から編集部が選定した本のタイトル、著者名、書影、あらすじとともに掲載。「中学生によんで欲しい30冊」は全20ページ。「高校生に読んでほしい50冊」は「泣・考・恋・驚・熱」のカテゴリを用意し、各カテゴリごとに10冊前後を全36ページにわたって紹介しています。また冊子の中で募集されている「ワタシの一行大賞」は、この両冊子と「新潮文庫の100冊」に載っている好きな本から気になった一行を選び、その一行に関する「想い」や「エピソード」を400字以内で書く新しい形の読書エッセイコンクールです。今年で7回目を迎えますが、実は過去に全国約2万人の中から見事「大賞」を受賞した本学園卒業生(2018年度卒:阿部日菜子さん)がいます。選んだ作品はカミュの「異邦人」。～それでもこの心臓の鼓動がもうつづかなくなる～という一行を自分の体験と重ね合わせて表現した秀作でした。自分の言葉で表現すること、限られた短い字数にまとめることはやってみるとなかなか難しいはず。興味を持った人はこの夏ぜひ挑戦してみてください。

★ 体に負担をかけない読書の姿勢

家で過ごす時間が増えて、勉強だけでなく本を読む時間を取れている人もいます。けれど、長時間本を読む時に悩ましいのが、座っていると腰が痛くなったり、寝そべっていると腕が痛くなったり……。どうにかして本だけに集中したいものですね。そこで、読書するときの姿勢のポイントをまとめてみました。

ポイントはこの3つ!



1. 本と目の距離は30cm以上

→近すぎると、目に悪いだけでなく目の疲れから腰痛や肩こりまで引き起こします

2. 首を下に向けすぎない

→視線をまっすぐ本に落とすようにするのがコツです。首が下を向いていると気づいたときは首を回しましょう

3. 椅子に座るなら、ひざの角度は90度、足の裏を床にピッタリつける

→これは読書するときに限りませんが、ひざの裏に椅子が当たっていると血の流れが悪くなり、むくみの原因になりかねません

ち
ださい☆

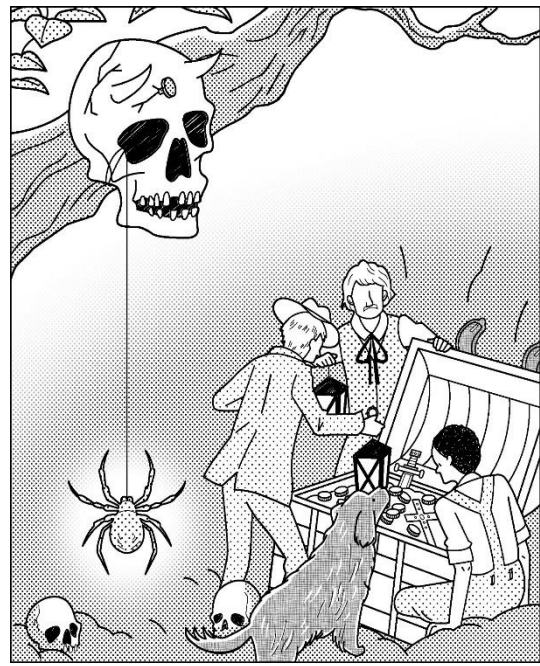
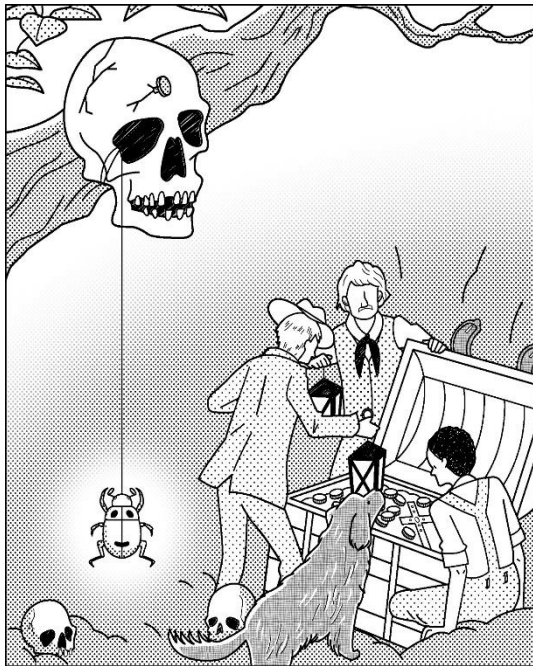
よっとしたことに気を付けるだけで快適な読書タイムに! おうちで試してみてください

『黄金虫』

文学まちがい探し

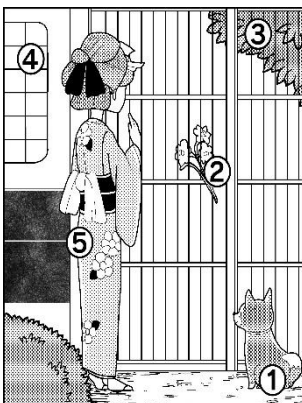
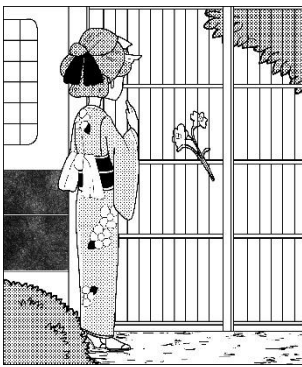
下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください

正気を失ったように興奮したルグランに命じられるまま、召し使いは木に登り、樹上に打ちつけられた^{どくろ}の目から甲虫をつるします。この奇想天外な方法から導き出された場所に埋まっていたものとは……。



『たけくらべ』のまちがい探しの答え

- ①犬 ②花の数 ③葉っぱの形 ④格子の形 ⑤着物の花柄



『黄金虫』

エドガー・アラン・ポー

物語の語り手「私」の友人、ルグランは、^{どくろ}を思わせる模様があり、黄金色に輝く珍しい甲虫を見つけます。その甲虫について話している最中、偶然、彼はある秘密に気づきます。

ルグランの^{めいせき}明晰な頭脳はそこから隠された暗号を導き出すとともにそれを鮮やかに解き明かし、彼と「私」は驚くべきものを発見するのです。

暗号とその解読という、当時では珍しかったトリックは大きい話題になったそうです。

作者のエドガー・アラン・ポー

(一八〇九—一八四九)は短編を中心に、論理的な心理描写と緻密に計算された展開を持つ作品を多く執筆しました。『黄金虫』『盗まれた手紙』『モルグ街の殺人』などは推理小説の原点ともいわれています。

一方、ポーには『黒猫』『赤死病の仮面』など、怪奇と恐怖に満ちた作品もあり、また詩人としても名高く、『大鴉』『アナベルリー』などを残しています。ポーは幻想と論理という二つの魅力を併せ持つ、一九世紀アメリカを代表する作家の一人です。

間違い探しの正解は次回の図書館だよりに載せます☆